

取り壊しはいつでもできます しかし…

壊したら元に戻すことは難しいのです

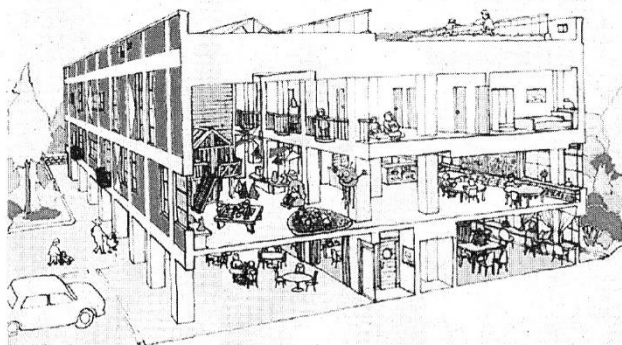
活用プランあります

解体を急がず中止して 智恵を出し合ひましょう！

毎日新聞 2016年4月27日の記事です

## 「ファミリーハウス」「鉄の街発信」

### 旧八幡図書館の再活用案



付き添い家族の「ファミリーハウス」案のイメージ図

### 2プラン提示 解体再考促す

東京の  
市民団体

北九州とゆかりの深い建築家、村野藤吾が設計した旧八幡図書館（八幡東区尾倉）について、東京の市民グループが、北橋健治市長宛てに建物の活用策を提案した。隣接地への市立八幡病院の移転新築と、改修費が高額になることを理由に、市は同図書館を5月に解体予定。しかしグループは「歴史的な建築を現代の生活の中で生かすことは各地で実践され、必ずしも高額の負担を強いるものばかりではない。旧八幡図書館の規模、構造はリノベーションしやすい」と再考を促している。

グループは、観光資源や景観保存に詳しい建築家や作家、弁護士、デザイナーらでつくる「村野藤吾と産業遺産のまち・八幡たてもの応援団」。現地を視察し、メンバーの大橋智子さんら1級建築士3人が「病院計画と競合せず、街の活性化につなげられる」二つのプランを考えた。

一つは、八幡病院の充実した小児医療に着目し、付き添い家族のための滞在施設とする「ファミリーハウス」案。宿泊室のほか、学校に行けない子供の教育の場も備える。もう一つは、世界遺産のある街の魅力を発信する拠点施設案。観光客に市内の産業遺産・近代化遺産群を紹介するビクターセンターや鉄を素材とする芸術家たちの工房を設け、併せて駅前から市民会館へ続く道を「アイアンロード」（鉄の道）として整備する。

いずれも3階建ての建物の2、3階を吹き抜けとし、明るい空間を演出。コストは、民間の運営で成功している例を具体的に数字で示した。大橋さんは「京都工芸繊維大が保管する旧八幡図書館の設計図を見ると、村野自身が何度もプランを練り直した跡があり、バルコニーや窓の位置、レンガパターンなどもスケッチしていた。故郷・八幡の復興のために初めて手がけた設計で、思いが伝わってくるようだった」と話す。

### 市は「特にコメントない」

プランは21日付で北橋市長に郵送。市病院局は提案内容に対するコメントは特にない。旧図書館を取り壊し、敷地を活用することで道路に面した広い駐車場を確保できる。2018年度中の開院を目指し、計画通り進めたい」としている。【長谷川容子】